

令和7年度 幼児教育研修（年齢別担任研修4歳児・第1回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

～4歳児の豊かな体験が広がる保育～

日時：令和7年5月8日（木）15:00～17:00

会場：足立区生涯学習センター

講師：帝京科学大学 非常勤講師 日色 智絵 氏



4歳児ってどんな時期？（自他の違いに気付く）

- ・言葉や運動が成長する時期
- ・友達との関わりが豊かになるため
葛藤体験が増える



見直しをしながら保育を行う

- ・自分のやりたいことにじっくり取り組めるような環境作りをし、その姿を認めていく。
- ・一人一人の自己発揮する姿を自信につなげる。
- ・葛藤を乗り越えていくことを支えていく。葛藤体験を通して友達の思いを知ること大事な体験である。
- ・3歳児以前の発達を踏まえ、4歳児後半は、5歳児の発達をイメージし見直しをもつ。



乳幼児期の育ちには
「安心」と「挑戦」の繰り返しが大切

アタッチメント＜愛着＞

不安な時、身近な大人が
寄り添うことや安心感を
もたらず経験を繰り返す。

豊かな遊びと体験＜挑戦＞

様々な人や自然・絵本など
の環境に出会い、興味・関心
に応じた遊びや体験をする。
（外の世界への挑戦）

「幼児期までの子どもの育ちに係る基本的なビジョン」p.2
（子ども家庭庁）
※今回のテーマに関わるので、全体をよく読むことが大事。

幼児期において育成すべき資質・能力

遊びや生活の中で、
様々な環境と関わり、
豊かな体験を通して
3つの資質・能力が
育まれていく。



・知識及び技能の基礎

・学びに向かう力、人間性

・思考力、判断力、表現力
などの基礎

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」等より

豊かな体験とは・・・

保育者が望ましいと思う活動を一方的にさせたり、
幼児に様々な活動を提供したりすれば良いわけでは
ない。活動は精選されなければならない。
体験することにより、幼児自身の内面の成長につな
がっていく『体験の質』が重要である。



体験を重ねるために・・・

環境にどのように関わるかが重要

幼児を理解するまなざし

観察するまなざし



外からの評価者としてのまなざし

横並びのまなざし

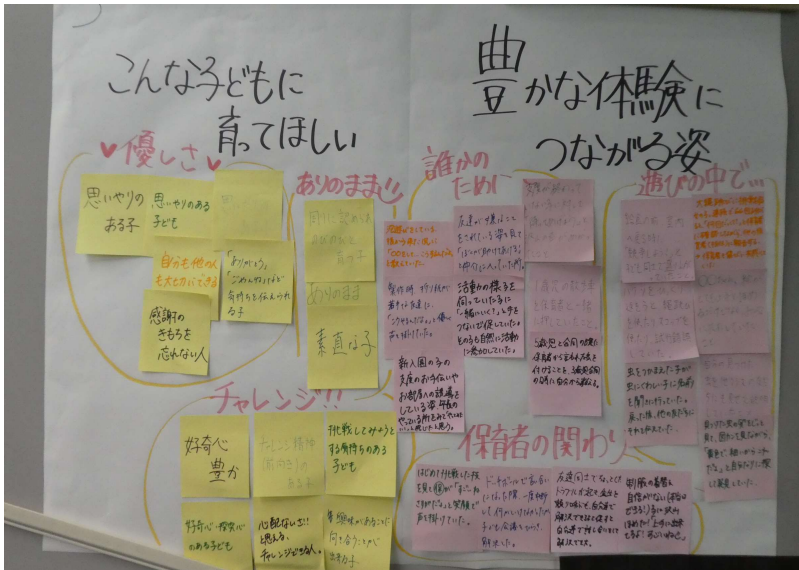


子どもになって、子どもの見る
世界を共に見るまなざし

「豊かな体験」をしてほしいとの願いから、「足りない経験は何か？」などと評価的にみてしま
うことがあるが、ありのままを理解しようとするまなざしが重要である。横並びの共感的なま
なざしで見て、それぞれの子どもの思い、興味・関心、楽しんでいることなどに寄り添うことで、
保育者の関わりや環境が自ずと見えてくる。

グループワーク内で共有しよう

「こんな子どもに育ってほしい」「いいなと思った4歳児の姿や保育者の関わり」について付箋に書きました。グループで項目を決めて分類し、タイトルをつけてポスターを作成しました。



作成したポスターを見ると、言葉での伝え合い、思いやり、自己主張ができる、自分を大事にする、自分の思いを表現するという意見が多かったですね。どんな子どもに育ってほしいという部分ではエピソードをたくさん書いてあり、豊かな体験の情景が浮かんできました。(講師より)



子どもの姿に合わせた保育者の関わりとして・・・



- ・同じ遊びをしても、一人一人思いや願いが違うという視点が大事。保育者の関わりは自ずとそれに即したものになる。
- ・リボイシング(この時期は主にオウム返し)によって 受け止め、共感する。(自分が肯定された安心感から、自分の考えに自信をもつようになる。)

意味のある環境を構成することも保育者の大きな役割

- ・環境構成の意味とは、「人・物・場」などの環境を、子どもの成長・発達に合わせて工夫し、子どもたちの園生活が豊かになるように構成することである。環境構成をするためには、**子どもの姿を語り合うことが大切である**。互いの考えを共有する、多面的な子ども理解をすることで、**次の環境構成・保育者の関わりが明確になる**。

幼児理解に基づいた計画と評価について

- ・子どもの発達や生活の連続性に配慮し、育ちの見通しをもって、日々の生活における**子どもの実態を捉える視点をもつことが重要である**。
- ・計画通り「させる」保育ではなく、その時々の子どもの状況やあそびの展開に応じて環境を適宜変えていくなど、保育士等の適切な判断の下、**保育が柔軟に行われること**。
- ・保育は、**多様な環境との相互的な関わり合いによって展開されていくもの**。子どももまた保育を作り出していく『**環境の作り手の存在**』であることを認識することが重要である。
- ・保育における育ちについて、丁寧に評価を行い、その結果に基づいて**保育の環境の構成等を継続的に構想し直す。計画自体の振り返りも必要**。
- ・子どもの姿を語り合うことで、互いの考えを共有し多面的な子ども理解につなげる。また、子ども一人一人のよさや可能性、伸びつつあることなどを把握し、園全体で共有する。



- 4歳児は言葉や運動面などの発達が大きく伸びる時期であると同時に、自己主張が強くなり、友達とのトラブルや葛藤を経験しながら少しずつ他者の思いに気づいていく大切な時期であることを改めて学んだ。また、自分のやりたいことにじっくり取り組む姿を保育者が丁寧に受け止め、子どもの発見や気づきを肯定的に伝えることが周囲の子どもにも良い影響を与え、遊びや活動が広がっていく様子が印象的だった。保育者の声かけ一つで子ども同士の関係や活動の流れが変わることを、事例を通して具体的に理解することができた。
- 子どもたちと横並びになり、子どもたちの視線の先に何があるのか、どんなことを考えどんな気持ちでいるのかを考えながら子どもたちの環境に必要なものを常に見直していく大切さを改めて学ぶことができた。